

肝・相談室～風だより～

～力を合わせて肝臓病を克服しよう～

Vol.11 2015/1



徳島大学病院 肝疾患相談室です



厳しい寒さが身にしみる季節となりました。
肝疾患相談室の活動報告をさせていただきます。



・第12回肝炎専門医療従事者研修会を開催しました

平成26年11月5日(水)に阿波観光ホテルにて、第12回肝炎専門医療従事者研修会を開催致しました。
講演の内容は以下の通りです。

◆一般講演

- ①「肝疾患相談室の活動報告」 徳島大学病院 肝疾患相談室 室長 岩橋衆一先生、相談員 楠本彩子MSW
②「当科におけるDAAを用いたIFN治療～IFN抗体を認めた1例～」

徳島県立中央病院 消化器内科 部長 柴田啓志 先生

司会：①、②ともに JA徳島厚生連 麻植協同病院 消化器科 部長 四宮寛彦 先生

◆研修会(特別講演)

「新規DAAの登場で広がるC型慢性肝炎治療」 北海道大学大学院 医学研究科 内科学講座 教授 坂本直哉 先生

司会：徳島県肝炎対策協議会 委員長 島田光生 先生

今回も、肝疾患専門医療機関や無料肝炎ウイルス検査受託医療機関の先生方、地域肝炎治療コーディネーターの方々が約134名(三好会場 7名、上那賀会場 4名)ご参加下さいました。
これからも肝炎専門医療従事者の知識向上のために、このような研修会を続けていきたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

※次回第13回は、今年3月31日(火)の予定です。



満員御礼の会場



WEB中継先との
意見交換

上那賀病院・鬼頭院長先生、
赤ひげ大賞受賞
おめでとうございます！

写真左上より時計まわりに、
肝炎対策協議会・島田先生、北海道大学・坂本先生、
麻植協同病院・四宮先生、県立中央病院・柴田先生、
肝疾患相談室・岩橋先生、楠本MSW

・C型肝炎の新しい治療薬『バニヘップ』をご紹介します



第2世代プロテアーゼ阻害薬
(テラプレビルやシメプレビル
と同系統)

効能・効果: セログループ1(ジェノタイプ I (1a) 又は II (1b)) のC型慢性肝炎における次のいずれかのウイルス血症の改善
(1) 血中HCV RNA量が高値の未治療患者
(2) インターフェロンを含む治療法で無効又は再燃となった患者
用法・用量: ☆本剤は、Peg-IFN α -2a(遺伝子組換え)及びリバビリンと併用すること。
・血中HCV RNA量が高値の未治療患者、あるいはインターフェロンを含む治療法で再燃となった患者に使用する場合
: 通常、成人にはバニプレビルとして1回300mgを1日2回、12週間経口投与する。
・インターフェロンを含む治療法で無効となった患者に使用する場合
: 通常、成人にはバニプレビルとして1回300mgを1日2回、24週間経口投与する。

この製品には、**警告、禁忌、製品特性、効能・効果/用法・用量**に関する使用上の注意があります。詳細については、下記URLにアクセスしてご確認ください。
<http://www.vanihep.jp/secure/seihinkihonjyouhou/overview.xhtml>

※ 『バニヘップ(バニプレビル)』が肝炎医療費助成の対象となったことを受け、プロテアーゼ阻害剤を用いた3剤併用療法の再治療及び医療費助成について変更がありました。詳細は徳島県ホームページと肝疾患相談室ホームページをご確認ください。



・啓発活動、肝臓病教室、看護師研修(見学)を実施しました



H26.11.30 『第35回小松島市健康づくりのつどい』で啓発活動



H26.12.1 数年ぶりの肝臓病教室(院内)を開催



谷口Dr.の講義風景



H26.12.5～12.6 肝炎情報センター看護師向け研修会に参加



H26.12.12 病棟、外来Ns.が大阪市立大学肝臓病教室を見学



患者さん手作りのお薬箱

詳しいお知らせはホームページをご覧ください

発行: 肝疾患相談室 (地域医療連携センター内) ☎ 088-633-9002
月～金(病院の休日を除く) 10時～16時(12時～13時を除く)
ホームページURL: <http://www.tokudai-kanshikkan.jp/>

～ 肝臓病の克服をめざして、県民の皆さんと医療と行政が手を取り合いましょう ～